



主人の召天から1年、 平安を守られて過ごす日々

横田早紀江

★5月20日、「believe 横田めぐみさん帰還のための祈りのオンラインコンサート」がYouTubeで配信された。そこでの母早紀江さんのことばを抄録。インタビュアー＝福澤牧人牧師

主人の滋は昨年亡くなりましたが、皆様の長い間のお祈りの中で、たいへんな救出活動を最後まで全身全霊を注いで頑張っておりました。「これから天国に行くんだよ、お父さん」と家族に見守られながら、神様に手を持っていただいて、平安のうちに召されていきました。それから1年がたとうとしていますが、私は不思議なほど平安に、主人がすぐそばにいるような感覚で過ごしています。背後の皆様の祈りがどれだけ大きく、それが私たちを守ってくださってきたか、ありがたく、本当に感謝しています。

—滋さんはたくさんの家族写真を撮っておられましたね。

そうなんです。もう撮りまくっていたというか。民宿とか銀行の寮とか安く泊まれる所を選んで、家族旅行によく出かけていました。子どもたちと楽しく過ごすのが大好きでしたね。

—めぐみさんの着物姿の写真もありますね。

めぐみはこの時まで着物なんて来たことなかったんです。私は京都に育ちましたから、若い頃ふだんよく着物を着てまして、それをまだほ

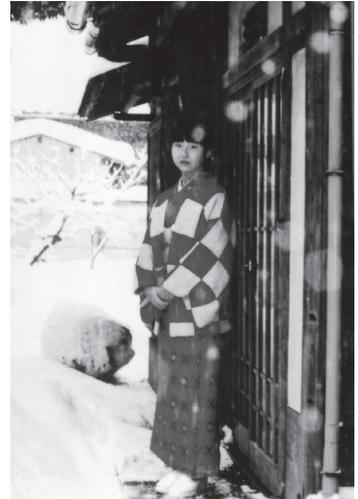
どかないで片づけてあったんです。お正月にめぐみといろんな話をしているうち、「着物着たことないねえ」と言うものですから、「お母さんの着てみる?」と言ったら、「着る、着る!」と言うので、じゃあといって着せたんですね。足袋を履いて足を広げてバタッと投げ出し、「足かっこいいね」って。「そんな人いませんよ。足は揃えておくのよ」と笑うと、「へえっ。窮屈なものねえ」などと言っておりました。あの時のめぐみの声まで思い出しますね。ほんとににぎやかな子でした。

—そのめぐみさんが突然消えて、新潟の海岸で泣き叫んでいた時、聖書と出合った。

私にとって聖書との出会いは電撃的でした。不思議なことが起きたという感じで、パッと目覚めさせていただいた。ほかでは救われようがなかったから。お友達が「ヨブ記というのがあって、苦しみのことが書いてあるから読んでね」って聖書を置いていかれたんです。

—現在、菅政権に変わり、何か変化はありますか?

それはないです。北朝鮮による拉致が発覚した時の橋本龍太



初めての着物姿のめぐみさん（小6）

郎さんから12人目の首相になっても、生きていることはわかっているのに、姿は見えない。アメリカには何度も行って、人権として大事な問題とわかってくださっています。今、ようやくそれが凝縮されて、北朝鮮や中国の人権に対して世界中が言わなければならないようになってきています。

—日本の教会、クリスチャンに対しては?

何より、祈り会をつくって毎月一度、たくさんのクリスチャンが集まり、20年以上の年月変わらなくめぐみたちが帰国できるように祈ってくださってきたことを感謝しています。